

インターバンクの声（2016年1月12日）

週末に発表された12月の米雇用統計が予想を大きく上回る伸びを見せたことから、ドル円も118円台後半までのドル買いとなり、新年の荒れ相場もようやく落ち着くかに思われた。しかし、中国経済の先行き懸念が拭いきれないことや中東情勢の地政学的リスクへの警戒感が根強いいためなのか、強い雇用統計で100ドル以上値上がりしていたニューヨーク・ダウが下落に転じると、ドル円も数時間も経たないうちに117円台中盤まで円が買い戻されてしまった。さらに金曜日のニューヨーク市場の終盤に不安感が増していたためか、週明けのアジア市場では、東京市場が休場となる中で、朝から117円台を割り込んで116円70銭前後まで円買いが進んでしまった。さすがに下落幅が大き過ぎたのか、利益確定のドルの買戻しなどから117円台に戻すのに時間はかからなかったが、今度は年初から大変なことになっている中国上海総合指数の大幅な下落が始まってしまった。これは再び116円台に逆戻りかと思われたが、中国株の値下がりには日本人が一番神経質なのか、意外にも円の買戻しの広がりは見られなかった。ユーロや豪ドルの値動きにも落ち着く気配が現れ始めており、今日からが本格的な新年の仕切り直し相場の始まりかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。